

たまねぎレポート【第421号】



令和4年11月26日

阪南青果株式会社

社内報

10月の天候は、気温は東日本で低く、全国的に気温の変動が大きかった。降水量は、東・西日本の日本海側と東・西日本の太平洋側で少なかった一方、沖縄・奄美で多かった。日照時間は、西日本の日本海側と太平洋側で多かった一方、沖縄・奄美で少なかった。11月は平年に比べ寒暖の差が大きく、降雨が少ない。気象庁の12月～2月の3か月予報では、平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は低い確率ともに40%。降水量は、東日本の日本海側で平年並み亦は多い確率ともに40%。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並み亦は少ない確率ともに40%。降雪量は、東・西日本の日本海側で平年並み亦は多い確率40%。月別予報は次の通り。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦是雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦是雪の日が多い。北・

東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦是雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦是雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年と同様に曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦是雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の10月の野菜の販売量は、240,531トン前年比97%(前月比105%)、平均単価はkg¥230前年比117%(前月比93%)。市場別にはかなりバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg¥178前年比103%。東京市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg¥246前年比117%。名古屋市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg¥220前年比116%。大阪本場の販売量は前年比100%、平均単価はkg¥236前年比118%。福岡市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg¥195前年比118%となっている。

建値市場の10月の玉葱の販売量は26,854トンで前年比101%、(前月比105%)、平均単価はkg¥100前年比91%(前月比88%)。北海物は出荷

が最盛期を迎えたことで増加したが、府県産地が減少し前年並みの販売量となった。平均単価は前年比前月比とも10%前後の安値となった。市場別では、札幌市場の販売量は4,291トン前年比80%、平均単価はkg ¥91前年比98%。東京市場の販売量は9,462トン前年比107%、平均単価はkg ¥104前年比88%。名古屋市場の販売量は6,698トン前年比98%、平均単価はkg ¥96前年比88%。大阪本場の販売量は3,802トン前年比117%、平均単価はkg ¥111前年比92%。福岡市場の販売量は2,601トン前年比106%、平均単価はkg ¥99前年比86%となっている。

日本農業新聞社の集計値では、主要7地区における卸の代表7社が販売した、10月の主要野菜14品目の販売量と平均単価は次のとおりである。販売量は116,567トン前年比3%減、平年(過去5年平均値)比5%減。平均単価はkg ¥139前年比20%高、平年比12%高となっている。

販売量が前年比増の品目は、ジャガイモが18%増、ネギが7%増、ダイコンが2%増など4品目。販売量が前年比減の品目はニンジンが18%減、ナスが17%減、ピーマンが13%減、キュウリとトマトが11%減など10品目。前年比高となった品目はニンジンがkg ¥144で118%高、レタスがkg ¥163で54%高、ピーマンがkg ¥361で53%高、キュウリがkg ¥330で40%高、ナスがkg ¥337で36%高など13品目。前年比安の品目は、ジャガイモがkg ¥91で前年比37%安、タマネギがkg ¥85で4%安の2品目だけで、ほぼ全面高となっている。

東京都中央卸売市場の10月の野菜の入荷量は、126,556トン前年比98%(前月比105%)。平均単価はkg ¥246前年比117%(前月比93%)で、上旬が¥257、中旬が¥247、下旬が¥237のジリ貧市況となった。

主要15品目で入荷が前年比増の品目は、バレイショが前年比120%、ネギ

が109%、ダイコンが108%、タマネギが107%など5品目。入荷が前年比減の品目は、ニンジンが前年比83%、ピーマンが86%、トマト・ナスが87%、キュウリが90%など10品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg¥173で前年比228%、レタスがkg¥202で154%、ピーマンがkg¥395で142%、ネギがkg¥359で138%、キュウリがkg¥368で137%など12品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥109で前年比61%、タマネギがkg¥104で88%、キャベツがkg¥75で97%など3品目となっている。

東京都中央卸売市場の10月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	126,556	98.1	104.8	246	116.8	92.8
た ま ね ぎ	9,462	107.0	97.4	104	87.6	88.9
キ ャ ベ ツ	17,294	101.3	98.1	75	97.3	102.7
は く さ い	15,117	98.9	155.7	79	126.4	92.9
だ い こ ん	11,499	108.2	143.3	99	108.2	69.2
に ん じ ん	7,506	83.3	120.8	173	228.1	82.8
ば れ い し ょ	7,254	120.0	124.6	109	60.6	76.8
レ タ ス	8,049	91.6	87.4	202	153.5	100.0
ト マ ト	5,056	86.8	79.4	532	133.6	113.2
ね ぎ	5,382	109.1	125.1	359	137.8	94.0
か ぼ ち ゃ	3,190	106.5	114.1	132	101.9	90.4
な が い も	744	98.1	84.9	300	96.9	100.7
れ ん こ ん	1,089	114.8	107.3	302	82.3	79.9
に ん に く	183	98.1	95.3	922	81.4	104.8

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の10月の玉葱の入荷販売量は9,462トン前年比107%(前月比97%)。主力は北海物で入荷量は9,270トン前年比110%、占有率は98%で前年比2ポイントアップ。中国物は159トン前年比47%、占有率2%前年比2ポイントダウン。兵庫物は27トン前年比60%。総平均単価はkg¥104前年比88%(前月比89%)。産地別では、北海物はkg¥103前年比86%、中国物はkg¥139前年比142%、兵庫物はkg¥219前年比134%となっている。

11月に入ってから、北海物のお荷は順調で、需要は今ひとつの状態であった。特に、Lサイズは入荷比率が少なくて、売り込み対象としていなかったために動きが鈍かった。他方、L大は転送業者の引き合いが強まり、¥1900の下値を維持した。産地側の価格要請が強く、月後半はL大¥2,000を確保する販売を考えたが、野菜全体が値下りしている折、厳しい状況であった。現在も入荷は順調だが、売れ行きは鈍い。12月は入荷減が予報されているが、需要の伸びが見込めず相場好転の気配はない。取り敢えず、来週からは産地の要望に応じ、主要銘柄の仕切り値はL大¥2,000を確保する予定。全体的には未だ早生系品種の222が多いが、JAふらのでは、来週から中生系の2000に切り替わり、球流れはやや小振りとなる予想。佐賀の冬採りの入荷が始まったが、減反傾向で少量だが、常連筋に捌いているが品質は悪くない。

11月1日～19日の玉葱の販売量は6,315トン前年比115%、北海物の占有率は98%。平均単価はkg¥102前年比62%。産地別では、北海物の販

売量は6,189トン前年比123%、平均単価はkg¥100前年比60%。中國物は100トン前年比29%、平均単価はkg¥133前年比116%。兵庫物は16トン前年比43%、平均単価はkg¥225前年比118%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の10月の玉葱販売量は6,698トン前年比98%（前月比105%）で前年比減、前月比増となっている。主力は北海物だが、前月に続き北海物オンリーの販売であった。北海物は6,657トン前年比99%、占有率は99%で前年と同じ。中國物は30トン前年比52%。兵庫物は10トン。総平均単価はkg¥96前年比88%（前月比90%）。産地別の平均単価は、北海物はkg¥96前年比89%。中國物はkg¥137前年比146%。兵庫物はkg¥250前年比107%となっている。

11月に入り、北海物の入荷は安定化し、且つ潤沢となった。前捌きはまずまずであったが、産地の要請価格L大¥2,000の販売に努めた。主力JAからは、2L～Mまでオール¥2,000の要請があったが、2L、L、Mの引き合いは少なく応じられなかった。月後半には入荷減の通告もあったが、それなりの在庫を抱えており、品不足にはならなかった。昨今のお荷は、やや減少傾向にあるものの需要は鈍く、そこそこに在庫を抱えているので品薄感はない。今の処値上げの話は聞かないが、輸出や加工向けが足りないとの情報があり、近く値上げ要請があるものと予想している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の10月の玉葱の販売量は3,802トン前年比117%（前月比116%）で前年比、前月比とも増となっている。在庫の少ない兵庫物は前年比大幅減となったが、主力の北海物は大幅増となった。産地別の販売量は、北海物が3,392トン前年比129%、占有率89%で前年比8ポイント

アップ。兵庫物は400トン前年比65%、占有率11%で前年比8ポイントダウン。総平均単価はkg¥111前年比92%(前月比85%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥96で前年比87%、品薄の兵庫物はkg¥233前年比139%となっている。

11月に入って、北海物の入荷は減少気味で、時折りに量販店の特注を受けた仲卸の手当て買いがあり、一時的に値上がりする場面があったが、それ以外は落ち着いた動きであった。月半ばには、産地から卸に値上げ要請があるとの情報が伝わり、中卸の手当て買いが見受けられたが、昨今では荷動きが鈍く、弱気配の市況が続いている。L大に売れ残りが発生しているが、卸では週末の量販店の特注を当てに在庫している。兵庫の冷蔵物も高値疲れが出て荷動きが鈍く、こだわり筋の固定客以外の客には買い控えられている。

11月1日～19日の玉葱の販売量は2,507トン前年比111%、平均単価はkg¥109前年比72%。産地別では、北海物は2,222トン前年比126%、平均単価はkg¥95前年比68%。兵庫物は279トン前年比57%、平均単価はkg¥220前年比118%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の10月の玉葱販売量は、2,601トン前年比106%(前月比101%)で、前年比、前月比とも増となっている。主力は北海物で、販売量は2,446トン前年比113%、占有率94%前年比6ポイントアップ。中國物は108トン前年比47%、占有率4%前年比5ポイントダウン、兵庫物は20トン前年比121%、占有率1%。総平均単価はkg¥99前年比86%(前月比80%)で前年比、前月比とも安値となっている。主力の北海物が安く、中国・兵庫物が高い。産地別の平均単価は、北海物はkg¥97前年比83%。中國物はkg¥118前年比149%。兵庫物はkg¥290前年比131%となっている。

11月に入って、北海物の入荷は順調で、荷動きもまずまずであった。価格的には多少のバラツキはあったが、¥2,000中心の販売であった。唯、量販店向けは、事前契約分で¥1,800もあった。荷動きは芳しくないが、業務・加工筋から割安品を求める声が多かったが、先高ムードで手当ては困難であった。昨今では、先高を見越して値上げ販売となっているものの、荷動きは鈍い。中値～下値主力の販売だが、買参人は当用買いで、ストックはしない。特に、2LとLサイズの荷動きが重く在庫が増えている。

11月1日～19日の玉葱販売量は1,593トン前年比117%、平均単価はkg¥104前年比66%、入荷は前年比増、価格は前年比安となっている。

11月25日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量97トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,900～1,600、L大 ¥1,900～1,600、L ¥1,900～1,400、
M ¥1,800～1,400。

【太田市場】 販売量309トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,900、L大 ¥2,200～1,900、L ¥2,000～1,900、
M ¥2,000～1,900。

佐 賀5kgDB(冬採り)2L ¥1,400、L ¥1,600、M ¥1,500、S ¥1,200。

【名古屋北部市場】 販売量204トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L大 ¥2,000～1,900、L ¥2,000～1,900、
M ¥2,000～1,800。

【大阪本場】 販売量204トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L大 ¥2,000～1,900、L ¥2,000～1,900、
M ¥2,000～1,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥2,000～1,700、 L ¥2,100～1,800、 M ¥1,900～1,800。

【福岡市場】 販売量105トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,900、 L大 ¥2,300～2,100、 L ¥2,000～1,800、

M ¥1,800～

供給(産地)の動き

11月に入り、北海道産地では、倉入れ期を迎え、即売物と貯蔵物の選択に追われている。倉入れは今月中に終了し、12月には在庫量がほぼ確定する。今年作は豊作型と言われたが、出荷が前進化したのか、倉入れ作業は予想より早く終了する。球流れは大粒だったが、生産量は予想を下回ったか、出荷が予想外に前進化したか、考えさせられる。ホクレン・北商の9月の道外出荷は前値年比115%となっているし、建値市場の11月の販売量は前年比120%前後である。10月の輸入は前年比85%で減少幅は予想よりすくない。輸出は9月～11月第2週まで11,334トンで、既にホクレン計画の10,000トンを超えている。北海物の出荷の前進化と輸入減、輸出増で、需給が改善されることを期待したい。

北海道産地

11月～12月は倉入れのシーズンとなるが、今年は殆どの地区では倉入れ作業は11月中に終了する。出荷は順調でやや前進化傾向である。唯、地域別圃場別に品質にかなりの差があり、ロス率が10%近くの処もあり、総じて商品化率の低下を招いている。収穫時には、豊作型と言われていたが、中晩生の玉伸びが予想を下回ったことや、輸入減や輸出増を始めロス率の上昇等で、この先の需給は品余りが解消され、先行きの市況回復に期待するムードが強まっている。

府県産地

年明け早々から出荷が始まる静岡物の極早生の生育は、順調に推移し球肥大は前進化傾向で、既にLサイズ級が散見される。定植後、一時は干ばつ傾向となったが、灌水施設が完備していることで、殆ど影響がなく、昨今は適温適雨に恵まれ、順調な生育が続いている。栽培面積は、前年並みだが、昨年来の好市況を反映して、栽培意欲は旺盛である。

佐賀産地では、10から11月の雨不足と種不足で極早生の播種・定植に遅れが見受けられたものの、続く早生は苗立ち良好で、早生の定植後の初期生育は順調である。特に、散水した圃場では生育が前進化している。苗余りから休耕予定田の再耕起もあり、昨シーズンの異常高を反映し、栽培意欲旺盛で増反となっている。一方、現在定植中の中晩生は減反の予想で、総体的な作付面積は前年比微増の予想。

長崎では、冬採り栽培の生産者はブロッコリーに転作し、冬採りの出荷はない。南高地区の春採りは、苗立ち良く定植後の生育は順調。作付は前年並みか微増。諫早地区の早生は、レクスター主力で、現在は定植中だが苗立ち良好。作付は、前年並みと見ている。

兵庫、主産地淡路島では、冷蔵物の出荷は前進化傾向であるが、ユーザの要請で2月一杯までの出荷を計画している業者が多い。唯、今年産は表皮が薄く裂皮や管理不良で発根など商品化の低下が懸念されている品物が多い。次シーズンの新物については、極早生の定植が終了し、初期生育は順調。現在、中晩生種のターザンの定植が始まっている。昨春の異常高の市況を反映して、早生系増反、中晩生系減反の動きにある。法人関係の生産者は増反傾向だが、増反分の殆どは高齢化や人手不足等で廃耕予定の肩代わりで、全体的には前年並みか微増と見ている。

輸入の動き

10月の輸入量は速報値で、19,760トン前年比85%。取引関係や作業事情など諸問題はあるものの、前年比減ながら予想を上回る輸入量となった。国別では、主力の中国が19,709トン前年比88%。米国が49トン前年比6%、ニュージーランドが1トン前年比1%。となっている。

中国、現在の供給地は甘肅省。山東省の切り上がりが早かったことで、収穫・出荷は前進化している。生産量は前年を下回ると報告されているが、定かでない。需要動向は自国内向け、日本向けに大きな変化はないが、韓国が不作で引き合いが活発で、週間5～6千トンが出荷されている模様。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉 \$11.20。皮付 \$9.80。である。

アメリカ、11/1現在の全米の在庫量は、前年比89%で過去5年間で最少と報告されている。国内マーケットは、感謝祭・クリスマスの需要期を控え、産地渡し・Jサイズ \$18.00、Mサイズ \$16.00 の高値となっている。因みに日本向け価格は、50kg・C&F・Jサイズ・ \$25.50。Mサイズ \$23.50 と報告されている。

12月の市況見通し

11月市況は、月初めは需要が振るわず軟化傾向となったが、月半ばからホクレン主導の値上げ要請で、市況は回復傾向となった。唯、需要の伸びが今一つで、もたつき状態が続いて来た。12月は年末需要期を迎え、物の動きが活発化する時期であり、玉葱市況も回復が期待される。需給バランスは、前述の様に北海物の出荷が前進化傾向にあるほか、輸入減・輸出増でかなり改善されると予想するが、需要の伸びはコロナ禍の影響等で期待薄だが落ち込むほどでない。要は、市況はホクレンの販売姿勢に左右される。小生の予想市況

は、需給関係は概ね均衡し、市場相場は保合から強保合で推移する。建値市場の実勢相場は北海物20kg・L大・¥2,100～1,800 と見ている。ホクレンの出荷調整次第では、高値¥2,300 もあると予想している。(笹野敏和記)